

KSKQ あかねニュース No.63

川西市障害者共働作業所あかね

〒666-0017 川西市火打1-5-19

Tel&Fax 072-755-4101

ホームページ akanesan.net

E-mail rassyai-akane@deluxe.ocn.ne.jp

天使・同情・共感

全盲のピアニスト、辻井伸行さんが、ポーランドのショパン音楽祭で「批評家賞」に輝いたのは、彼が十七歳の時でした。

先天性の視覚障害だった彼を授かったお母さんの辻井いつ子さんは、小さい時から音楽（特にピアノ曲）に敏感に様々な反応を示す彼にいちはやく注目、その才能を伸ばし感性を培う役割を担う決心をされたそうです。

辻井さんの音楽性の豊かさについて、ここで評論家気取りで論じるつもりなど毛頭ありません。むしろ、そのような話題で盛り上がっている談論の場に出会うと、つい本筋から外れたというか、たとえば「彼があそこまでの名声を得る過程で、果たしてどれだけ

人が協力者として彼に関わってきたのだろうか？」とか、「障害者健常者を問わず、才能というのは誰でも潜在的に持っている、それを誰で見抜いて引き出せるか否か、要は周囲の見る目の問題なのだ」という説を唱える人は多いが、果たして本当にそうだろうか？」などと、考えが漂ってしまします。

あのノーベル賞作家・大江健三郎氏の長男・光さんに思いを馳せる時もありです。

たしかに、障害者の中には、彼らのように特別なことに天才的な才能を示す人がいますが、かと言って、障害者だからそうなのだ、と云うわけではないと思います。むしろ私は、「天才的な才能

とは、誰もが潜在的に持っているのではない。稀に持っている人がいても、その人がその才能を誰かに見出されたり、まして周囲が熱心にそれを伸ばそうと協力したりしてひのき舞台へと駆け登って行くケースなど、超まれである。それら稀有な才能を持った人の中の、そのまた一握りの人が、不幸にも障害を持って生まれてきたということであり、辻井伸行さんや大江光さんのような人は、超まれ中の超まれなのだ。」と、思っています。

彼らは、仮に障害を持たずに生まれてきても、才能を発見する周囲の眼と、それを伸ばし育てる協力体制を得てさえいれば、立派に大音楽家の道を歩みだしたことでしよう。

もちろん、辻井さんが障害者であつたためにマスコミの取りあげ方が際立った、ということとは

毎日発行

一九九一年九月三日 第三種郵便物認可

頒価

定価

一〇〇円

否めません。

マスコミの視点は、「障害を克服して、並居る健常者を尻目に受賞した!」という彼の不撓不屈の努力への称賛、そして、「その陰に、母親の献身的な後押しあり」と、「ほんとうは凄まじかったであろう、母親の子育て格闘」を、いとも簡単に「美談」にすり替え、仕立て上げて、世の人々の同情と感動の涙を誘おうとする姿勢です。

本来、綺麗ごとで済ますことのできる話ではなかったはずですよ。



かといって、マスコミは一方的に批判されるべきでもありません。辻井さんの活躍は、世の障害者やその保護者・応援者たち

に力と勇気を与えたことは紛れもない事実。挫折しかけていた家族が辻井さんの快挙に力を得て、自分たちも頑張れば出来るかもしれない、と新たな一歩を踏み出した例も全国で少なくないでしょう。

くどいようだが、彼がもしあのような障害者でなく健常者として参加・受賞していたらマスコミはあれほどドラマチックには報じなかっただろう、と思うのみです。「障害者は、天使のように心がきれいだ。嘘をつかないし、裏切らない。思ったことを素直に言う。嬉しければ笑い、悲しければ泣く。悪かったと思えば素直に謝る。だから私は障害者が好き。」という意味の言葉をよく頂戴します。

エールを贈られた気持ちで嬉しいのですが、必ずしももろ手を挙げて「異議なし」とは言えない気分も・・・

遠くからでは見えない風景も、近くに寄ってよく見ると、それまで見えなかったものが見えてきて、時として「見ずに(知らずに)済めば良かった」と思うことがあります。

一庫マラソンを走り抜き、行商にイベントにカレンダー販売に声をからし笑顔を振りまき、支援してくださる皆様に向かって精一杯に「元氣」を発信するあかねのメンバーたちも、仕事が終わって作業所に戻れば、疲れも手伝って「ふつうの人」に戻ります。

ちよつとしたことがきっかけでの、メンバー同士のいさかい、いがみ合い、仲直り、甘え、わがまま、隠しごと、干渉、道草など、自己表現にハンディは持っているものの、本質は「ふつうの人」なのです。天使でもなんでもない。

彼らが一庫マラソンで五キロを完走する姿に感動し、「元氣と勇気をもらった」と云ってくださる方が多いのは、彼らが「ハンディを抱えながら、健常者にまじって頑張っている」からでしょう。

そして、そこにはある種の「同情心」が介在していることも事実です。「障害者にしてはよくやっている」という・・・

この「同情心」に縋るかたちで、「支援する・される関係」が構築されていったこ

とも事実です。

もし「同情」という言葉に、なにか「見下した」響きが感じられるなら「共感」と言い換えてもいいでしょう。

彼らの健気さに共感してくださる方を中心に支援の輪が広がっていきます。

辻井さんの音楽の才能を伸ばそうと結束した協力者の人たちも、頑張ろうと励む彼の姿に共感したのです。皆が彼に「天使の心」を見たかどうかはわかりません。

おそらく彼は「普通の人の心」を持ちながら、立ちふさがる現実の壁の前に幾度も挫折しそうになり、親や協力者たちと壮絶な葛藤を繰り返して、「天使」を演じることなど出来なかったと思います。

私たちも障害者を必要以上に「天使」扱いするのでなく、かといつてことさら「同情する」必要もないでしょう。

さりげなく、自然に、ふつうに、彼らと接する。それが一番余計な力の入らない付き合い方の方です。来年も「あかね」をよろしくお願いいたします。よいお年を！

芳川 雅美

2009年をふりかえって……
今年も頑張ることができました。

感謝！

朝の弁当班は忙しい。エプロン・帽子着用・手洗いのあと、電話注文を取る人・盛りつけの準備・食器洗い・それをふく人・それぞれにテキパキと動く。

「さあ！出来たでえ」とおぼちゃんの声。
「のんちゃん、何をにらみつけて見てんの」「うーん？今日の弁当あのお姉さん好きやろか？お姉さん、魚が好きやねん！今日の弁当は魚が入ってへんけど……これきつと、喜んでくれると思う。」「しっかり売って来てやあ」

そんな彼女は、あかねの営業マン？！市役所や地域のいろんな所へ配達に出かけ、「弁当どうですか？」「今日はいらんわ」「お弁当、家から持ってきはったんですか？」「それなら、これお持ち帰りも出来

ますよ！……すごい！……
今日はいらんと言われても、簡単に引き下がるうとせず、咄嗟にお持ち帰りも！と言ったという。彼女のひたむきな努力に頭が下がる。

(また別の話)

最近、新しい職員が一名増えて、初日の朝礼で、「じゃあ、みんなで自己紹介しましょう！」と、一番端っこにいるメンバーに目をやった。

思わず「あつ！誰か代理で……言つてあげんと……」と思った瞬間、彼は椅子からスツと立ち上がって、頭をペコンと下げて「おつ」と発声したら、ストーンと座った。言葉の少ない彼がしつかり自己紹介したのである。「わあ……大ちゃんが自己紹介

毎日発行

一九九一年九月三日

第三種郵便物認可

頒価

定価

一〇〇円

したあ・・・!」思わず拍手。日頃の彼を知るみんなは大喜び。瞬間の成功を見せてくれた。

弁当・ケーキ・クッキーを作り、学校や市役所・地域の各地で販売活動(行商)する中で、あかねのメンバーたちは、泣いたり笑ったり、怒ったり暴れたりしながらも、それぞれにこの一年、成長させて頂きました。

まさに、「地域の中で共に生きて」一年間でした。

本当に、皆様方の温かいご協力のお陰だと思えます。ありがとうございました。

どうぞ、来年もよろしくご支援いただきますように、よろしくお願い申し上げます。



富田 啓子

新しくスタッフが増えました!

はじめまして、この度12月に職員として、あかねにお世話になることになりました。

以前、トラックの運転手やレンタカーなど車に関する仕事ばかりしてきました。

正直、昔の自分なら障害を持っておられる方々と共に働くということなど、敬遠していましたし、考えられないことでした。

そんな私が、何かの縁でこのあかねという作業所に来ることが出来ました。

何の取り柄もない私ですが、若さと元気を武器にメンバーさんと一緒に頑張っ
て行こうと思っています。

ここしばらく、弁当の配達や行商に行ったりしましたが、来る前に思っていた
思いとは裏腹にメンバーさんたちがみんな元気で、こちらが圧倒されるばかり
の日々を過ごしています。

まだまだこれから、メンバーさんと打ち解けて、信頼される職員を目指して
います。何もかも初めてのことばかりで、楽しくもあり戸惑いもありますが、
充実した日々を過ごしています。

この仕事が私の人生において、大変貴重で有意義な時間であり、成長の糧と
なることを信じて・・・

庄司 泰英 (しょうじやすひで)

インフルエンザ禍、それでも……

インフルエンザ流行のあおりを受けて、「落語会」も「あかねまつり」も開催できていません。

あかねの楽しいイベントが出来ず、期待してくださった皆さん、本当にごめんなさい。落語会は染二師匠が「来春に延期」を約束して下さっているので、しばらくのお待ちを！

さて、とにかくたくさんの方々に迷惑をかけてしまいました。でもそんな中で、心温まることもあったので、ここに書かせてもらいます。

Aさんとしておきます。私とAさんは短期間同じ職場で、二度いっしょにお茶したぐらいの間柄です。

落語会の券が売れず、池田在住のAさんなら参加して下さるような気がして、窮状をお手紙しました。

そんな矢先に、「二十五日は中止」との

連絡。時代遅れの私の連絡方法は郵便のみで、大急ぎで「中止」を郵送しましたが、行き違いでAさんからの返事が届きました。『コピーして、行きつけの自然食品の店に貼ってもらいました。それから池田に落語ミュージアムがあるので、貼ってもらえるかどうか聞いてみます。』

さあ大変、職場の昔の連絡簿を捜し出しAさんの電話番号を見つけました。

留守電に中止の件を入れましたが、何分古い名簿、どこに繋がったのやら……

仕方なく開催予定日の朝、再度速達で郵送。Aさんの好意を仇にしてなるものか。

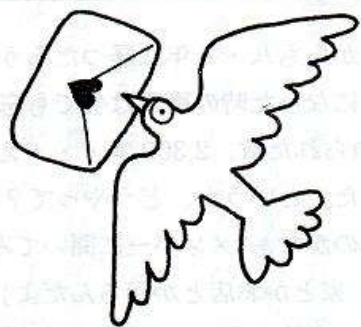
電話も郵便も間に合ったようで、Aさんからまた便りが来ました。このアナログが素敵でしょ！

『大変でしたね。せっかく準備されていたのに。』さらに、『先のお店、これからも何かイベントがあれば掲示してもらえますよ。』

これからもパンフ等ください。』と締めくくられていました。

Aさんと再びお茶する目を、楽しみにしています。それにしても、私は「あかね」の単なる休日ボランティアですが、それでもこんな心温まる経験をさせてもらえたのです。

インフルエンザ禍、それでも、どっこいあかねは、倒れないのですが、いろんな人が支えてくださるからで、たくさんのAさんに心より感謝！



古田 裕子

毎日発行

一九九一年九月三日

第三種郵便物認可

頒価

定価

一〇〇円

あかね弁当

今日のあかね弁当のメニュー

*北海道産鮭のムニエルきのこソースがけ

*厚揚げと小松菜の炊いたん

*紅玉りんごとさつまいもの甘煮

*だし巻きたまご

*ご飯と、ひのなのお漬物

以上 六百三十円

私があかねに来て、まず驚いたのは、本当に正直なお弁当ということ。

「今どき、こんなお弁当あったんだあ」

最近テレビを見ると、お弁当の安売り合戦がよく放送されている。

山盛りの唐揚げと、ご飯とキャベツの千切りで二百九十円。

どうやったら、こんな価格で販売できるのか不思議でたまらない。

安いものがもてはやされる時代・あかねには、どうしても譲れないものがある。

自分の家族に食べさせられるものを、お客さまにも！である。

お米は、奈良県のお百姓さんに分けて頂いております。野菜の一部は、職員やメンバーの家族の畑で採れた無農薬野菜。

そのほかの食材も、大手スーパーではなく、小さくても地元で頑張っているお店で、出来るだけ買わせて頂いております。毎日、北海道産の昆布と煮干しで出汁をとり、野菜を炊いたり、だし巻きに。出汁をとった後の昆布は、佃煮に。

ぬか床には、畑で採れた季節の野菜が出番を待っています。

人の手で、皮をむき、人の手で切り、握ね衣をつけ、人の手で調理する。当たり前のことが、とても貴重に思う。手当が出来るほど、人の手の力つてすごいと思うから。

こんな、あかねのお弁当、もつと知ってもらわなくっちゃ。川西近隣地域の方には、配達させて頂きまので、是非、一度、ご注文ください。(個数・時間の都合など配達が出来ない場合もありますので、お問い合わせ下さい)

岡田 小月

ピンポン！ (カレンダー売記)

カレンダー販売して何年になるかなあ？僕が来てからも八・九年は経つだろうか？初めてカレンダーをメンバーと一緒に販売することになった時の衝撃は今でも忘れない。10月過ぎに届いたカレンダー。目の前に積み重ねられた数、2,300本・・・ええ～！年末までに全部販売するとのこと。信じられなかった。というか、どうやって？得意先でもあるのかなあ？卸でほとんど売り先決まっているのかなあ？メンバーに聞いてみた。笑顔で、いや、苦笑いだったかなあ？「一本ずつ、家とかお店とか回るんだよ」と・・・あり得ない。途方にくれながら仕方なく後ろについて一緒に回ってみた。一軒ずつほんと

『ピンポーン』と、ためらいなくドアホーンを押す山口さん。「うそー」世間では厳しい飛び込み訪問販売。ヒヤヒヤしながら様子をうかがう。「あかね作業所です。今年もカレンダー販売で来ました。よかったら一本いかがですか？」ドアホーンから、「結構です」の一言。あらためて、「うそっ〜」って感じで、お先真っ暗な気持ちに落ちていると、「さあ、次いくよ！次の家のおばちゃんは知り合いなの」・・・

てくてくと、つぎつぎと、トライ！『ピンポーン』「あらあ、山口さん、カレンダーかな」おばちゃん出てきて、「今年も頑張ってるね、一本やけどいいかな？」

山口さんの何とも嬉しそうな笑顔。僕は安堵。そんなやりとりで、何軒か回った後、もうドキドキしてヘトヘトな僕の横で、山口さん、悔しそうに「今日は三本だけだったね。明日はあっちの家回ろう！」トボトボ帰りがら「でも、おばちゃん買ってくれたの、良かったでしょ」と、背中を「バシッ！」と叩かれて、逆に励まされている僕。

「参ったなあ！なら、明日は俺が話してみるわ」「頑張ってるね」となんともたくましい。言葉足らずの営業で見ておっかないけど、一人ひとりがたくましく見えた。

「カレンダーなら俺に任せろ」と誰よりも営業力のある、この時期だけ？頼りの？本田さん。住んでる地域で、奥手なのに売りあげる谷川さん。ほか皆それぞれ個性を生かした販売にビックリです。頑張らねば、と後ろ押される日々です。

作業所運営資金としてカレンダーは他のイベントと同じく、要になっています。しかし、年々売れ行きは芳しくなく困っているのも事実です。もともと売れにくいカレンダー。メンバーのみんなの頑張りに、皆さんが気持ちで買って頂いているカレンダー。

長いカレンダー販売でメンバー一人ひとり、我々も含め大きく成長し、人とのつながりの大切さを学んできているのだと、強く確信します。今年も僅かとなりましたが、よろしければ、まだまだ頑張っているところです。ご協力頂ければ幸いです。 渡邊 誠

2010年あかねオリジナルカレンダー 一本1,000円



「中川 隆 傑作風景写真集」

*電話・ファックスでのお申込み・・・072-755-4101

*メールでのお申込み・・・インターネットあかねホームページ

Akanesan.net よりお入りください

*ハガキ・お手紙でのお申込み・・・〒666-0017

川西市火打 1-5-19

川西市共働作業所あかね

*どうか一本でもお助けください！よろしくお祈いします！

お出会い情報 ~あかね行事へのお誘い~

新年1月9日(土曜) 10:00~15:00 あかね作業所前

恒例 もちつき大会&あかねまつり 駐車場にて

毎年、みんなでもちをつき、おいしいものを食べ、ワイワイと楽しんでいる、もちつき大会。今回は、雨やインフルエンザ禍で中止になった「あかねまつり」を同時に開催することになりました。

ですから、従来のもちつきに加えて、バザー・フリマ・模擬店・音楽などを、

どなたでも参加出来る形で、みんなで楽しむことができる企画にしました。どうぞお誘い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。

あかねボランティア・ヘルパー 新年会

のお知らせ

いつも、あかねの活動を支援してくださっている皆様、本当にありがとうございます。

もちつき大会の日、1月9日(土) 17:30より会場未定ですが、場を設けることになりました。よろしくお願ひします。(詳しくは後日連絡)

寄付金・カンパ・助成金

ご報告とお礼

(9月~11月分)

小倉 様 酒井加代子様

ハローあさひ 様

石井 様 簾下 様

エキスパートチャリティー

バザー 様

ありがとうございました!

編集後記

十月の「あかね元氣寄席」・十一月の「あかねまつり」と続けて、インフルエンザ禍・雨などのため中止となりました。準備・チケット販売・出店予定・出演者・お手伝い・参加予定・協賛等々数え上げきれないほどの、みなさまの支援がありました。

あらためて、お詫びと云うか? ありがとうございます。

「寄席」は来春三月に実施「あかねまつり」は「もちつき」と併催することに、なりました。また、厚かましくも、皆さまにはご支援のほどお願ひします。

・・・と、云っている私はその時期、入院しておりまして、それこそ、多大なご迷惑をおかけしていました。

皆さまにも、お体にはくれぐれも留意され、良いお年を迎えられますように。また、来年もあかねをよろしくお願ひいたします。

内海

毎日発行

一九九一年九月三日

第三種郵便物認可

頒価

定価

一〇〇円